

# 全交通共済と共に、亡くなられた組合員の弔問へ

全交通共済加盟組合の被害

4月24日現在

家屋の全焼・全壊・全流失 100件 半壊や一部損壊 1454件



(組合員の購読料は) (組合費に含まれます)

港区新橋5-15-5 交通ビル  
国労東日本本部  
発行責任者 高野苗実  
編集責任者 伊藤隆夫

No. 712 定価 20円

2011年 5月 17日

国労加入で変えよう  
職場と労働条件

<http://www.e-nru.com>

携帯用ホームページはこちらのQRコードから



熊谷さんの遺影(気仙沼の自宅)



熊谷さんのご遺族にお見舞いを渡す角田理事長(右から2人目)

4月23日、気仙沼市内のご自宅に居られる熊谷秀三さんのご遺族の弔問及びお見舞いをしました。熊谷さんは当日大船渡線陸前高田駅に勤務中でした。熊谷さんが年配の方の手を引いて避難所

大震災以降では初めての本格的な雨降りの中、自宅では奥様とお父様が出迎えてくれました。遺影の前で線香を手向けた後に奥様から「あれから一ヶ月たちましたが『ただいま』と主人が何もなかったように帰ってくるような気がしてなりません。」という今の心境が語られました。当日の熊谷さんの行動をお話すると奥様もお父様もじつとつむいておられました。お父様から気仙沼を含めた沿岸地域での地震への気構えの希薄化の話がされ、奥様から「多くの家族を一瞬に失った方や未だに遺体が見つからない方が沢山いることからすれば、『うちはまだ幸せなんだ』と思うようにしている。」という話

話されましたが、弔問に訪れた誰一人声に出す言

4月16日に、今回の大震災によりお亡くなりになられた阿部勝弘さん(水戸地方本部・原ノ町運輸区分会)、23日には熊谷秀三さん(盛岡地方本部・気仙沼地域分会)のご遺族への弔問及びお見舞いに、全交通共済角田理事長、宮坂東日本本部長、佐藤副本部長が同行し、国労の当該地方本部と東日本本部で伺いました。改めて被害に遭われた方に心よりお見舞い申し上げます。今号は①震災犠牲者組合員遺族への弔問報告 ②東京地本からの組織拡大報告とフレッシユマンセミナー報告としました。



阿部さんのご遺族にお見舞いを渡す高野委員長(福島市内の避難所)

## 前に一歩踏み出すために

4月16日、福島市内の避難所に居られる阿部勝弘さんのご遺族のもとへ弔問及びお見舞いをしました。阿部さんは震災当日非番でした。自宅から車で、ご両親と長女、本人の4人が避難の途中、津波に巻き込まれ4人とも亡くなりました。

会でしたが、「まだまだ多くの方が行方不明ということを考えて。4人が折り重なるように最後まで一緒にいて早くに見つかったことがせめてもの救いでした。」という奥さんの声や気丈に振る舞い必死に涙をこらえている娘さんを目の前にして、共済・組合代表共々涙をこらえることは出来ませんでした。共済・組合それぞれから見舞金を手渡すと奥見送っていたきました。

熊谷さん宅を後にし、熊谷さんが当日勤務していた陸前高田駅を訪れましたが、「ここが駅でした」と言われ限りの存

避難所では奥様と残された二人の娘さんとの面葉はありませんでした。共済・組合代表それぞれから見舞金を手渡し、当家を後にしましたが、奥様とお父様に雨の降りしきる中、車が見えなくなるまで

熊谷さん宅を後にし、熊谷さんが当日勤務していた陸前高田駅を訪れましたが、「ここが駅でした」と言われ限りの存

また、「全てが何も手つかずの中で早速にありがとうございます。ありがとうございます。」という言葉も頂き避難所を後にしました。在すら想像できないような現状でした。がれきの山と化した「駅」で参加者一同手を合わせ、惨憺たる市内の現状を目に帰途につきました。

被災された組合員の皆様に  
心よりお見舞い申し上げます  
この度「東日本大震災」により被害を受けられた組合員の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。  
一日も早い復旧と皆様のご健康をお祈り申し上げます。  
交通共済東日本本部は、被災された組合員の皆様に万全の体制で対応し、迅速な共済のお支払いに全力を挙げてまいります。  
交通共済東日本事業本部

# 宇都宮車掌区で組織拡大

## 一人一人の悩みを聞く運動から



宇都宮車掌区において2月26日付けで国労に復帰加入した三浦重政さん（54歳）の歓迎会が、4月27日に宇都宮市内で開催された。

司会の五十嵐書記長は、3月に起こった東日本大震災の影響で開催が遅れた事をお詫びしながらも、不採用問題の一定の解決の後に国労の最重要課題である組織拡大が実現した事を喜び合いたいと挨拶した。

小松分会長は、「本人の意思で復帰加入した。分会は、国労本来の人間関係を大切にしたい」と決意を明らかにした。

その他東京地本・常盤教宣部長、大宮地区本部・馬橋委員長、宇都宮支部・高田委員長が歓迎の挨拶を行った。

復帰加入した三浦重政さんからは「もう少し早く国労に復帰加入すれば良かった。皆さんと一緒に組織拡大を取り組んでいきたい」と決意を明らかにした。



東京地方本部は4月10日～11日に、若手組合員を対象に、フレッシュマンセミナーを三浦海岸・マホロバマインズで開催した。

この学習・交流会は、国労に加入してくれた若い世代（JR採用のみなさん）に国労組合員としての知識を吸収してもらおうと一昨年から始めたもの。

常盤教宣部長の司会あいさつで始まり、冒頭、1ヶ月前の震災で2名の国労組合員が亡くなった事について、全体で黙とうがさげられた。続く石上委員長のあいさつでも、震災の事がまず触れられ、本部・東京地方本部を中心に支援物資の取り組みが続いていること、全国の国労機関・組合員から協力をいただいていることが報告された。また会社との経営協議会でも震災輸送・復旧に協力していることを報告された。

引き続き大震災関連で、盛岡地方本部が被災状況を確認に三陸地区を回った時に撮影された映像を上映。街や線路が流された惨状が映し出されたが、また、住民が町をかたづけ、動きだしている光景も確認できた。

続いて、東日本本部伊藤教宣部長から、1月にJR東日本会社から提案された新

若手だけの楽な雰囲気交流会

人事賃金制度の見直しについて報告された。

若干の休憩をはさみ、分割民営化直後に国労本部が作成した「足跡二四部」が上映され、当時の国労の様子、支援してくれた仲間、国鉄組には懐かしく、平成組には新鮮に思えた。

その後、若干の交流がなわれ、3月の宇都宮車掌区、4月の大崎運輸区での組織拡大について、それぞれ大宮地区本部・新橋支部から報告がされた。また、3月までグリーンスタッフだった組合員が、4月から正社員として新しい職場に移動しており、感想などが出された。

ここで全体の交流は一旦終了し、若手だけの楽な雰囲気での交流が行われた。

また、夜に入り食事をしながらの交流。そして、部屋に戻り交流はさらに続いた。

翌日は松川書記長から情勢報告があり、その後全体で交流が行われ、最後に松尾青年部長の団結がんばろうで終了した。

医療の進化にあわせた、アフラックのいちばん新しい「がん保険」です。

生きる気持ちに、本気で応える

**アフラックのがん保険**

「生きる」を創る。

**Affac**

アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)  
東京第二法人営業部  
〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル  
Tel.03-3344-1459 Fax.03-3344-4036

■専業代理店

**アベニール 株式会社**

TEL 03-3437-6810  
FAX 03-3437-6822

〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F

資料請求いただいたお客様の個人情報の利用目的は、アフラックの各種商品やサービスの案内・提供・維持管理となります。

詳しくは、「パンフレット(契約概要)」や「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。

AP104-2008-0124 4月18日

# 新規採用者5年連続で加入！

## 一括和解以降、拡大90名

### 水戸地本 土浦地区分会 牛久駅 36歳

### 5月5日付 2011年度新入社員

### 「国労は仲間を大切に作る組合」

# 組織拡大

### 東京地本

### 新橋支部

### 大崎運輸区分会

### 4月8日

### 54歳、主任運転士



人の悩みを聞く運動をしてきた。その結果だと思えます。その結果だと思えます。まずまずの拡大に向けて分会一同頑張ります」と決意も含めて歓迎の挨拶をした。

来賓として、東日本本部から松井書記長が「06年の一括和解以降、10～20代の青年や最後は国労でという年配者まで国労に復帰が出ている。貨物会社では、協力会社の仲間が広島で4名加入した。こういう加入が国労の特徴だ。国労の優位性は例えば今回の大地震の見舞金でも唯一の職域共済である交通共済は既に見舞金を渡したことでも判る。共に頑張ろう」と挨拶を行った。

# 若手組合員を対象に

## フレッシュマンセミナーを開催

## 若手だけの楽な雰囲気交流会

東京地本発

た、3月までグリーンスタッフだった組合員が、4月から正社員として新しい職場に移動しており、感想などが出された。

ここで全体の交流は一旦終了し、若手だけの楽な雰囲気での交流が行われた。

また、夜に入り食事をしながらの交流。そして、部屋に戻り交流はさらに続いた。

翌日は松川書記長から情勢報告があり、その後全体で交流が行われ、最後に松尾青年部長の団結がんばろうで終了した。